

孤独・孤立に関する日・独共同発表（2023年6月26日）

日本国の小倉将信孤独・孤立対策担当大臣とドイツ連邦共和国のリーザ・パウス大臣（連邦家族・高齢者・女性・青少年担当）は、本日、孤独・孤立に関する初会談を実施しました。

日独両国は、孤独・孤立は、全ての人を抱え得る普遍的かつ社会的な課題であり、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により顕在化・深刻化したグローバルな重要課題であると認識しています。

日本では、孤独・孤立の実態調査、孤独・孤立対策の重点計画の作成、官民連携体制の構築等に加え、孤独・孤立対策推進法の制定により、孤独・孤立対策を総合的に推進しています。

ドイツ連邦共和国では、連邦政府の孤独対策戦略を策定・実行していきます。孤独・孤立対策への支援は行われています。これらの取組を通じ、意識啓発、調査研究・具体的事業の強化、政策分野横断的な活動、および当事者に対する支援の拡充を目指していきます。

孤独・孤立対策の政策立案に当たり、日独両国は、以下の点について、孤独・孤立対策に関する情報交換を継続することに合意しました。

1. 孤独・孤立対策においては、「予防」の観点から、人と人との「つながり」や「絆」を実感できることや、孤独・孤立に伴うスティグマを解消して、誰もが支援を求める声を上げやすく、周囲が声をかけやすくすることが重要であり、そのための社会環境づくりについて、両国の知見や政策を共有する。
2. 孤独・孤立の実態に関する調査研究について、両国の知見を共有し、データに基づく政策を推進する。

日本
孤独・孤立対策担当大臣

小倉将信

ドイツ連邦共和国
連邦家族・高齢者・女性・青少年担当大臣
リーザ・パウス